

令和3年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

	課題番号	20353771
研究テーマ名	超高齢社会における社会・健康問題の解決に資する学際的研究	
委託研究課題名	成熟社会における食の価値に関する学際的研究	
研究実施期間 (西暦)	2020年度～2022年度(3年間)	
中核機関・ 研究総括者	国立大学法人東京大学 中嶋 康博	

1 研究の進捗状況等

コロナ禍にあって、現地での活動を伴う研究が慎重な対応が求められて進捗が遅れた。そのこともあってWEB調査を中心に食の価値項目の精査を進めたが、脳活動計測については具体的な品目の選定と条件の確認に時間がかかり、進捗が遅れた。

①「食の価値」仮説の理論的検討

昨年度WEB調査で得られたデータを解析して、食の価値評価には食の信頼感が影響する可能性があることを確認した。食の価値項目の検討において、抽象的な食事・食選択を前提にした議論から具体的な財や場面を特定した議論へと展開することとし、そのために米とトマトに関する実務の専門家からのアドバイスを得た。

②脳科学視点からの「食の価値」情報の把握

「食の価値」(品質、健康、倫理)要素に関わる脳活動を計測するための撮像条件の検討を行い、特定の撮像条件において、側坐核および中脳腹側被蓋野の活動が、被験者の主観的価値と相関することを確認した。

③経済・心理学視点からの「食の価値」情報の把握

食の価値ホイールを考察するための基礎データを得るために、「食の価値」主要3要素の仮説を検証するための消費者WEBアンケート調査を行った。ここではBWS分析を行い、食の価値項目の順位と選好シェアを計測することとし、それが食の場面によってどのような差異をもたらすか検証した。また具体的な品目として、米とトマトを選び、食の価値項目を選択要素に組み入れたコンジョイント分析を行って、項目の限界価値を把握した。

④脳科学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

②と統合して研究を進めた。

⑤経済・心理学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

フィールドサーバーe-kakashiを現地に設置する準備を進めた。倫理項目に関連した農村風景を事前に撮影して、その映像を見たときの注目点をアイトラッキングによる視点解析をし、ゲイズプロットデータとして定量的に把握する手法の開発を行った。

⑥品質評価学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

文献調査(論文、事典、小説、エッセイ等を参照)によって種々の品質要素を収集し、単純要素および複合的要素を抽出し取りまとめた。